

2030年の新基準

「暮らしやすい」

が価値を上げる。

働き方に生き方が
縛られない時代に
『東海』が選ばれる



前出のふるさと回帰支援センターによる2020年調査では、窓口を訪れた相談者の移住希望地ランキングは静岡県が1位だった。移住にあたって何を重視するかは人それぞれだが、自然や文化の楽しみやすさ、住みやすさ、子育てのしやすさ、地域との繋がりがやすさ、働きやすさに価値を置く人にとって、いずれも「しやすさ」のが東海といえる。東海への移住者に話を聞くと、「ちょうどいい」という言葉も出てきた。都市化が進み過ぎても自然が利便を上回り過ぎて、今の私たちに暮らしにくい。「暮らしやすい」の価値が上がり東海が注目される時代がやってくるのは、そう遠くないだろう。

いま、私たちの価値観は大きく変わりつつある。コロナ禍による新しい生活様式に対応する中で、リモートワークやワーケーションが広がり、週休3日制を導入する企業も出てきた。働き方が多様化したことで、生き方が縛られない時代になりつつあり、テクノロジーが進化する2030年ごろには、さらに「働く」「住む」「遊ぶ」の場が重なり合い、働き方と生き方が融合していくことも考えられる。そして、生きる場所の選択基準として「暮らしやすい」が、より高い価値を持つのではないだろうか。そのとき、あらためて注目されるエリアが、愛知・岐阜・三重・静岡からなる「東海」だ。なぜ、東海なのか？ その理由を探っていく。

地方移住へ関心をもつ
若い世代が増加

人口過密な都心から、より自然豊かな地方への移住を考える人が増えている。デジタル化が進み業種によっては既に働く場所の制約はなくなりつつあったが、コロナ禍は働き方や生き方を考え直す機会となった。内閣府が2020年6月に実施した調査(※1)では、東京23区に住む20歳代で地方移住へ関心が高くなったと答えた人が35・4%にも上る。



一方で、実際の移住にはさまざまな壁があるのも事実だ。移住を自治体と連携して支援するNPO法人ふるさと回帰支援センター(東京・千

東海の「暮らしやすさ」をもっと知りたい方は、デジタルブックをご覧ください。



- 働き方改革**
選択の多様性こそ新しい働き方成功のヒケツ
- 豊かな暮らし**
都心近くの庭付き戸建てをあきらめなくていい理由
- 自然との共生**
心身の健康を取り戻せた理想の移住先の見つけ方
- 子育て環境**
保育園だけじゃない将来の教育環境にも注目を
- 人間関係**
初めての土地になじめた人と繋がる仕組みとは

デジタルブックを見る方法は2通り

1 日経ARで見る
上の表紙画像に日経ARアプリをかざすとデジタルブックがご覧いただけます。
※日経ARアプリは本紙1面のQRコードからダウンロードできます。

2 「honto」で見る
右のQRコードから「honto」にアクセスし、ダウンロードしてご覧いただけます。
※「honto」は大日本印刷株式会社が運営するハイブリッド型総合書店です。

そこで全国を見渡すと、暮らしやすさの条件をほぼクリアする地域があることに気がついた。それ

仕事も自然も交通の便も
ちょうどいい



代田)の2020年調査(※2)によると、移住先選択の条件は「就労の場があること」が最多。次いで「自然環境が良いこと」「住居があること」「交通の便が良いこと」と続く。また、三重県が2019年12月〜2020年1月に全国の20〜30代の地方移住経験者に実施した意識調査(※3)によると、移住の不安要因として「コミュニティとの人間関係」が、決定要因として「子育て環境」が上位に挙げられている。こうした条件を満たした地域こそ移住者にとって暮らしやすく、移住先の有力候補となるのだ。



へる。もちろん子育て世代の期待に応える環境も整い、地域コミュニティへの繋(つな)がりやすさも魅力的だ。ちなみに、

が愛知・岐阜・三重・静岡からなる「東海」だ。第一次から第三次まで幅広い産業が集まる東海は、海と山の自然に恵まれ、歴史遺産や伝統文化も受け継がれてきた地域。交通の便が良く、物価の安さもあつて住宅を手に入れやすいという特長もある。もちろん子育て世代の期待に応える環境も整い、地域コミュニティへの繋(つな)がりやすさも魅力的だ。ちなみに、



※1 出典：内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」
※2 出典：NPO法人ふるさと回帰支援センター「地方移住をめぐる現状と課題」
※3 出典：三重県「全国の地方移住経験者に対する意識調査」